

海域の概要

本湾は、津軽半島と下北半島に囲まれ、北部を津軽海峡に開いた内湾です。湾奥には青森港などがあります。湾内ではホタテの養殖などが行われています。



Specification

諸元

湾口幅：14 km

面積：1667.89 km²

湾内最大水深：75 m

湾口最大水深：75 m

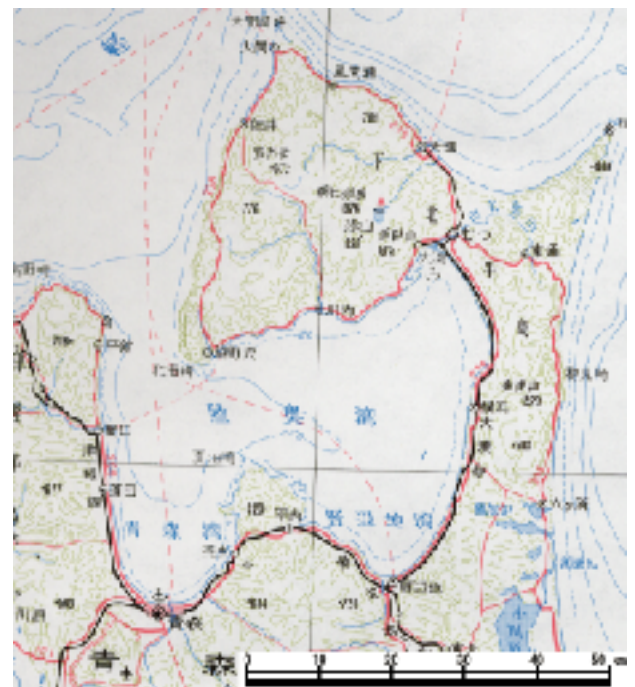
閉鎖度指標：292

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

青森県下北郡佐井村焼山崎と東津軽郡平館村平館灯台を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

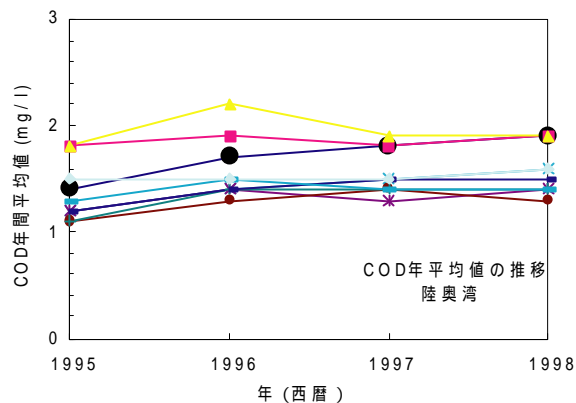


環境

津軽暖流が平館海峡を経て流入し、陸奥湾を周回して津軽海峡へ流出しています。

流入河川では、生活排水等に起因する水質汚濁が認められますが、湾内の水質は、良好な状態が維持されています。COD 年平均値の推移では、概ね 1~2mg/l で推移しています

底質は、ほぼ全域が泥質で、沿岸の一部に砂や岩礁の底質がみられます。



自然

陸奥湾では、夏泊半島地域が浅虫夏泊県立自然公園、下北半島先端部が下北半島国定公園に指定され、鯛島付近は海中公園に指定されています。

陸奥湾に突き出た標高 200~300m の夏泊半島は、屏風岩や立石海蝕洞など変化に富んだ風光明媚な自然海岸から成り、ヤブツバキ自生北限地として、また、ハクチョウの渡来地として知られています。沿岸部にはミズナラ、ブナクラス域自然植生のエゾイタヤ、シナノキ林が生育し、ヤブツバキ林をはじめ、大島自然植物群落、ツクバネ、アカマツ、ヒバ林、カラスザンショウ、平地ブナ林などの特定植物群落が生育するなど、多彩な植生環境が形成されています。

浅海部には、青森市市街地から夏泊半島西岸を除き、ガラモ場やアマモ場が発達しています。

下北半島の半島西部は、急峻な山地がまじかに海岸に接して海蝕崖をなし、沿岸部ではエゾイタヤ、シナノキ林や自然裸地となっています。また、浅虫温泉や水族館、海水浴場などのレクリエーション施設もあり、市街地や生活の場に近接した良好な自然環境を有しています。



夏泊半島のヤブツバキ

文化歴史

青森市には、東北三大祭りの一つである「ねぶた祭り」や、縄文時代最大の集落遺構としての三内丸山遺跡等の数多くの遺跡や社寺仏閣などの歴史的・文化的遺産が残されています。また、沿岸域のやや内陸側の台地段丘や山麓端などには埋蔵文化財包蔵地も数多く分布しています。

下北地域の陸奥市田名部は、恐山霊場への参拝口にあたる交通の要衝地で、南部藩の港や代官所が置かれたほか、大湊には戦前海軍要港部が置かれるなど、下北半島の中心として栄えてきました。

産業

陸奥湾は、ホタテの稚貝を大量にとる方法を確立した日本におけるホタテ養殖発祥の海です。現在では、約 88,000 トン、120 億円の漁業生産をあげています。他の魚種として、春にはトゲクリガニ、夏にはホタテ・ホヤ、秋にはクロイソ、冬にはナマコが採れます。関連の水産加工業も発達をみており、水産業は重要な産業として発達しています。



養殖ホタテの稚貝